

2015年10月 コラム

「肺炎に注意しましょう」

DLBSN 東京 協力医 水上勝義（筑波大学）

肺炎は、発熱、全身倦怠感、咳、痰、呼吸困難などを引き起こし、高齢者では重篤な経過をたどることが多く注意が必要です。DLB の患者さんは、唾液や食べ物が誤って気管や気管支に入る「誤嚥（ごえん）」をおこしやすく、その結果として肺炎にかかりやすくなります。

ところで**換気応答**という生体反応をご存じでしょうか。

換気応答とは、血液中の酸素濃度が低下したり、二酸化炭素濃度が上昇した時に、

脳がそれを感知して換気量を増やし、低下した酸素を増やす、

または上昇した二酸化炭素を減らそうとする生体反応です。

実は、健康な高齢者やアルツハイマー型認知症の患者さんに比べて、DLB の患者さんは、この**換気応答が低下**していることが、私たちの研究から明らかになりました。肺炎など呼吸に障害がみられる状態では、呼吸数を増やし換気量を増やすことで体内に酸素を取り込み、二酸化炭素を排出しようとしていますが、換気応答が低下するとこのような防御反応が弱くなります、

以上述べてきたように、DLB の患者さんは肺炎にかかりやすいうえに、肺炎に対する**防御反応が弱い**ので、肺炎にとくに注意が必要と言えます。

これから秋から冬にかけて寒くなってくると肺炎が増えてきます。十分ご注意ください。

＊次回のコラム担当は眞鍋雄太先生です＊